

第7回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2010年3月10日(水) 13:00~16:00

場所: 経済産業省別館10階 1014号会議室

出席者

委員長

尾池和夫 国際高等研究所 所長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会(東京都立大学 名誉教授)

委員(五十音順)

伊藤和明 NPO法人 防災情報機構 会長

加藤碩一 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表

高木秀雄 日本地質学会(早稲田大学 教授)

中川和之 日本地震学会(時事通信 編集委員)

中田節也 日本火山学会(東京大学地震研究所 教授)

松本 淳 日本地理学会(首都大学東京 教授)

オブザーバー

経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐

永田邦博

外務省広報文化交流部国際文化協力室課長補佐

渡邊 博

文部科学省国際統括官付 ユネスコ第3係

田中沙穂

文化庁文化財部記念物課天然記念物部門主任文化財調査官

桂 雄三

農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐

長田実也

環境省自然環境局国立公園課課長補佐

藤井好太郎

国土交通省河川局砂防部砂防計画課課長補佐

五十嵐祥二

観光庁観光地域振興部観光資源課

松岡 良

事務局

産業技術総合研究所 佃 栄吉

産業技術総合研究所 脇田浩二

産業技術総合研究所 高橋裕平

産業技術総合研究所 渡辺真人

産業技術総合研究所 濱崎聡志

産業技術総合研究所 中島 礼

産業技術総合研究所 澤田結基

日本ジオパークネットワーク

糸魚川市東京駐在所 斎藤清一

配付資料

- 資料1 第6回日本ジオパーク委員会議事録（案）
- 資料2 ジオパークの最近の動向
- 資料3 2010年の募集・選定スケジュール（案）
- 資料4-1 評価シートの改定（案）
- 資料4-2 評価シート新旧表（案）
- 資料5 今後のJGCの審査方法（案）
- 資料6 現地審査において着目するポイント（案）

13:00～

【委員長挨拶】

雑誌や新聞、各地域の website などでは、ジオパークとは何かという説明はそろそろ不要だと思うフェーズに入ったことを例に、ジオパークの社会的な認知度が高まってきたことが述べられた。

【資料確認】

事務局より、ページと資料番号の対応が確認された。

【第6回委員会 議事録確認】（資料1）

指摘等あれば、会議後までにお知らせ願いたい。

→ 委員会終了までになかったので、承認となった。

【ジオパークの最近の動向に関する報告】（資料2）

事務局より、資料の説明が行われた。

訂正： 南アルプス中央構造線 に“エリア”を追加

<質疑応答>

- ・ ジオパークに関しては、IGCP では報告のみで、審議で決定する事項は特段ない。
- ・ IGCP もジオパークに関心を示している。他国の動向も情報を把握しておいてほしい。

訂正して公表資料とすることが承認された。

【2010年 JGC 審査スケジュールについて】（資料3）

事務局より、資料の説明が行われた。

- ・ 第4回ユネスコ国際ジオパーク会議の日程は、4月11～15日に訂正。
- ・ JGNは8月22日を日本のジオパークの日にしたい意向をもっている。
- ・ 山陰は順調に行けば、夏に現地審査の予定。
- ・ 2012年の第5回ユネスコ国際ジオパーク会議に島原が立候補した。第4回会議席上で決定する。
- ・ 5月23日の連合大会のジオパークセッションでは、午前は研究者、午後は申請地域による発表。スケジュールが承認されれば、3月15日の申請開始と4月26日の〆切を公開したい。

<質疑応答>

- ・ その他にもジオパークに向けて検討中の地域はいくつかあることが報告された。
- ・ 第9回委員会はGGN申請を考えると、なるべく早い方がいい。
- ・ ジオパークの日は、昨年8月22日付のGGN加盟認定にちなんだもの。JGNで決定予定。

3月15日の申請書類受付開始、4月26日の必着〆切が了承され、早いうちにHPで公表することが承認された。また、以下を修正して公開資料とすることが承認された。

- ・ 5月23日（日）は、第8回日本ジオパーク委員会による公開プレゼンテーションと非公開の審議に修正。
- ・ 第9回日本ジオパーク委員会の日程を、8月下旬～9月に修正。

【審査項目、配点等について】（資料4-1, 2）

事務局より、議題の趣旨および資料内容の説明が行われた。

<質疑応答と議論>

- ・ GGN審査ではサイエンスはもちろんだが、管理運営がかなり重視された。全体の採点のバランス

は体制に重みを置く方がよく、それを審査するシステムが必要。認定後のフォローアップも重要。

- ・再審査の議論も将来的には必要だが、本日は評価項目について議論する。評価シートの公開についても議論する。本日の委員会の決定を経て、申請受付に入る。
- ・GGNの基準に日本ジオパークが全て合わせるのはむしろよくない。GGNには出さないが日本ジオパークには認定する場合は、日本独自の基準でいい。
- ・ジオパークの面積の記述は、世界ジオパークでも必ずしも明確ではない。
- ・語尾は体言止め、採点は%で考えるので評価項目は10点満点がいい、等の意見。
- ・評価シートの公開はいいことだ。ただし、細かい配点まで公開するのであれば、今後、点数を変える際のルールを決めておく必要がある。評価シートは自己採点表をまとめた形で作成されており、逆に、評価シートをそのまま自己採点表にする方法もある。

議論の結果、評価シートの以下の点に修正したものを、新版として公開することで承認された。

- ・表現は体言止めにする。
 - ・総点200と大項目の配点までを公表する。
 - ・8点以上はゴシック化して、重要視を示す。
- その他、文言の修正

【今後のJGCの審査方法について】(資料5)

事務局より、議題の趣旨と資料内容の説明が行われた。ポイントは、1) 現地審査に行った2人の委員以外も再採点するかどうか、2) 採点の取扱い、3) 現地審査時のガイドラインの提示、である。

<質疑応答と議論>

- ・現地審査後に点数に変更があった地域は、プレゼンで十分に把握できなかったことも理由。
- ・GGNや世界遺産と同様に、委員以外に現地審査を委託し、その報告書をもとに委員が審査する方法もある。
- ・現地審査後は全員で再採点するのがよい。現地審査報告の委員会で全員が再採点となると、事務局はたいへんだが、不可能ではない。
- ・従来の審査では、点数がばらついても委員会内の議論で収束させていった。それでいい。

資料5, 6については、内容を公開するかどうか、そして、公開するのであれば本日議論して承認しておくことが必要であることが確認された。

休憩

14:50~

【現地審査時の審査ポイントについて】(資料6)

事務局より、議題の趣旨および資料内容の説明が行われた。

<質疑応答と議論>

- ・現地審査のガイドラインはあった方がよい。審査項目を満たすための必要事項として本資料を公開するのは意義がある。ただし、GGN審査では別のガイドラインがあるのだから、日本独自のものとして議論すればよい。
- ・ガイドラインがないと現地審査での評価基準が曖昧と誤解されかねない反面、ガイドラインを示すと、皆それに合わせてくるため独自性が出てこなくなり、いいジオパークにならないという弊害も心配される。
- ・これを見せても地元にはわかりにくいのではないか。一方、事前に示しておかないと地元も質問に

答えられないだろうから、その意味では必要。また、地元で用意しておいてほしいもののリストをあらかじめ伝えておく必要がある。

- ・ 昨年の GGN 審査では、細部について尋ねることで地元の力量を見極めるのが狙いだったようだ。
- ・ 携帯電話によるジオパークの案内では、ジオスポットを見ずに携帯の案内だけを見て回る例が出てきているため、評価としては悩ましいところ。
- ・ 本資料はガイドラインとして整備されるまでは、着目ポイントの手持ち資料として現地審査で使えばよい。着目ポイントについて委員で共有し、審査実績を積み上げていくのはいいこと。内容が洗練されてきたら、公開していいのではないか。あとはどう公開するかだ。

資料 5 の修正版を事務局で作成し、後日、委員に了承されたものを公開資料とすることになった。資料 6 は、現地審査の際の委員の手持ち資料とし、当面は公開しないことで了承された。

【その他】

JGC と JGN の体制について

高木委員より、2009 年 11 月の JGN 臨時総会において JGN と JGC 相互の役割について提案があったので、JGC での議論の必要性が報告された。この後、委員長から、JGN の現状について説明が求められた。これに対し、JGN から、同臨時総会で、今後 JGN は窓口、JGC は審査・認定機関という独自性をもたせる提案がなされたこと、今年 5 月に定期総会、8 月に臨時総会を予定していること、委員に JGN のアドバイザーとして委嘱を検討していること、法人組織をめざしていることなどが説明された。

<質疑応答と議論>

- ・ JGN はこれまでイベント実施が主だったが、今後は組織として実務もやっていく時期にきている。
- ・ JGC は振るい落とす所ではなく、日本にいいジオパークを増やしていく牽引役となることが当初の目的である。今後は JGN にジオパークを育てていく役目を担ってほしい。
- ・ 地域で JGC としての助言を求められる場面があり、委員として発言していいのか迷うことがあるが、JGN からの委嘱の形であれば委員も発言しやすい。
 - アドバイスを会員に限るかどうかなどはまだ議論の最中。(JGN)
- ・ 利益相反の観点からは、会員に限るというのには違和感がある。一研究者として助言をするような非会員の地域もあり得る。科学者の自主性が基本であり、それを阻害してはならない。
- ・ 現場の状況を知るために、地元の分科会などに出席して話を聞きたい地域もある。
 - 8 月の JGN 臨時総会では、分科会と申請に関する相談会なども予定している。(JGN)
- ・ 参加費有料で、連合大会を地域が発表あるいは相談する場にする方法もある。

以上の議論は、JGC の位置づけが JGN の方で整理された時点で再度行うことで、了承された。

委員について

- ・ 松本委員より、4 月から交代の意向が伝えられ、所属学会および後任者本人の了承も得られていることが報告された。今後事務局が委嘱手続きを行う。また、地学雑誌にジオパークの特集号を企画しており、人文地理学的視点からの地域振興が主な内容となることが報告された。
- ・ 委員を増やす方向で、JGN から 1 年間 JGC 委員として参加してもらってはどうかの意見が出された。これに対し、JGN から委員として一人推薦してもらってはどうか、臨時委員という形もあり得る。次回の JGN 総会の議題として検討願うことになった。

最後に、尾池委員長より、エダー氏からの提案で世界のジオパークをシリーズで解説論文として

出していく企画の紹介があった。また、中川委員より5月の連合大会では、各地域からのポスターおよび講演の内容にJGC委員がコメントをつけることが提案された。これについて、委員長からJGNに対して、検討してほしいとの依頼が出された。

16:00 終了。